

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラマーセオリー		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ドラマーセオリー	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	多様なジャンルのアーティストのライブ・レコーディングに参加し、幅広い現場経験を有する。 楽器メーカーのエンドーサーとして活動するほか、教則書の執筆実績も持つ。				
授業概要					
ドラマーとして必要なあらゆる知識の習得を目指す。世界共通で使用されているドラム譜の読み書き、音符の認識、音楽理論、楽器の基礎知識を学ぶ。					
到達目標					
確かな知識の裏付けされた楽器演奏の習得を目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	一年間の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・ミュージシャンとしてのルールと挨拶について ・イベント(ドラムパフォーマンス)について ・アンサンブル、DAW、音楽理論についての確認				
【前期】 5～8回目	スコアリーディング① ・音符、休符の解釈と記譜法、一般的なドラム譜の書き方 ・音の名称、全音半音、スケール、コード基礎				
【前期】 9～12回目	スコアリーディング② ・リズムの解釈と記譜法(4分音符、8分音符、3連符、16分音符) ・リズムのヒアリングと記譜法。楽曲の中からドラムパターンをヒアリングし採譜				
【前期】 13～16回目	スコアリーディング③ ・楽曲構成の理解とマスター譜の書き方 ・バンドスコア、マスター譜、パート譜の違いについて				
【後期】 17～20回目	イクイップメント① ・ドラムメーカー、シンバルメーカーの歴史と音の特徴 ・スティックの材質、形状による音の違いについて ・フットペダルの調整方法				
【後期】 21～24回目	イクイップメント② ・スネアドラムの各部名称とメンテナンス方法 ・スネアワイヤーの材質、種類、取り付け方法				
【後期】 25～29回目	イクイップメント③ ・シェルの材質による音の違い ・ジャンルや音楽スタイルに合わせた楽器選びについて				
【後期】 30～34回目	イクイップメント④ ・ドラムヘッドの種類と音の特徴 ・効果的なミュート方法、マイクのりを意識したチューニングについて				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラムルーディメンツ		授業形態 / 必・選	実習		必修
	学則上表記	ドラムルーディメンツ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、自身のバンドで年間多数のライブを行い、実践的な演奏力を培う。その後もバンド活動と並行し、各種アーティストのライブサポートやレコーディング、セッションに参加し、幅広い現場経験を有する。					
授業概要						
ドラムを演奏する上で必要なスティックコントロールや基礎技術を学ぶ。						
到達目標						
基礎実技の充実やスティックコントロールを使用したリズム表現の習得 ・PAS国際ルーディメンツ40 ・オールアメリカンno.2						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	各種楽器のセッティング、名称や使用方法、調整の仕方を学ぶ 体の使い方(4種類のストロークの説明と実践とそれらを用いたアクセントストローク)を学ぶ ルーディメンツ40 No.1～No.8(シングルストローク～シックスストロークロールまで)とドラムセットへの応用					
【前期】 5～8回目	チェンジアップ練習による4分、8分、3連、16分、6連、32分の習得 ルーディメンツ40 No.9～No.19(セブンスストロークロール～シングルパラディドルディドルまで) とドラムセットへの応用					
【前期】 9～12回目	ルーディメンツ40 No.20～No.24(フラム～フラムパラディドルまで)とドラムセットへの応用 フラム時の体の使い方(4種のストロークの用い方)とフラムのダイナミクスの解説					
【前期】 13～16回目	All American Drummer No.1習得に向けての事前練習 前期内容(フラム、パラディドル)の重点練習 それぞれのルーディメンツを連続して行う際のスティックコントロールの解説					
【後期】 17～20回目	ルーディメンツ40 No.25～No.30(シングルフラムドミル～フラムドラッグまで)とドラムセットへの応用 連続するフラムやフラムを用いた3連符を叩く際のスティックコントロールの解説					
【後期】 21～24回目	ルーディメンツ40 No.31～No.35(ドラッグ～シングルドラガディドルまで)とドラムセットへの応用 ドラッグ時の体の使い方(4種のストロークの用い方)とダイナミクスの解説					
【後期】 25～29回目	ルーディメンツ40 No.36～No.40(ドラッグパラディドルNo.1～トリプルラダマキュー) とドラムセットへの応用 ドラッグとロールの組み合わせについての説明とスティックコントロールの解説					
【後期】 30～34回目	All American Drummer No.2習得に向けての事前練習 後期内容(フラム、ドラッグ)の重点練習 それぞれのルーディメンツを連続して行う際のスティックコントロールの解説					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。				
授業概要					
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。					
到達目標					
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)				
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)				
【前期】 11～14回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)				
【前期】 15～17回目	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、				
【後期】 18～23回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2) Secondary Dominantを使ってみる				
【後期】 24～27回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)				
【後期】 28～33回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティをあげるような学習。				
【後期】 34～35回目	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラムベーシックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ドラムベーシックⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーデビュー後、作品発表やメディア出演などを経験。 以降はサポートドラマーとして多様なアーティストのライブやレコーディングに参加し、幅広い現場で実績を有する。					
授業概要						
ドラム演奏にベースとなる基礎を学ぶ。						
到達目標						
演奏に必要な身体の使い方と奏法の向上。楽曲におけるドラムフレーズやfeelingを理解できるようにする事。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	セッティング⇨ドラムセットの体に合う高さを見つける フォーム修正・叩き方・鳴らし方 ⇨ 芯のある音の出す ストローク四種類⇨ フル・ダウン・タップ・アップストローク習得					
【前期】 5～8回目	チェンジアップ⇨4分・2拍3連・3連・8分・16分音符(5連符/6連符) tempo 60~120 8ビート⇨バスドラムのパターン4分音符、8分音符で tempo 60~140 オルタネートスティッキング(16分音符パターン)					
【前期】 9～12回目	シンコペーションブック P38 tempo 60~120 ・オルタネートver ・バスドラver バスドラダブル踏み方(スライド・アップダウン) 8ビートBDパターン(16分音符)					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	シンコペーションブック P38 3連&16分verアクセント tempo 60~100 足のパターン P38通しでやる(目標ノームス) 16ビートBDパターン(16分音符)					
【後期】 17～21回目	手16分パターンにBDユニゾン(スネア・タム・シンバル) →シングルパターン・バブルパターン tempo 60~120 ダブルストローク(3連パターン・16パターン) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース)					
【後期】 22～25回目	6ストローク(RLRLRL・RLRRL・RLRLRR・RLRLRL・RRLRL) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース) Feelについて→8分・16分の説明と応用。					
【後期】 26～30回目	シャッフルの説明と応用 ハーフタイムシャッフルの説明と応用					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	Feelにあったフィルインの構築方法とその応用					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アンサンブルⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラムパフォーマンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ドラムパフォーマンスⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ドラムを軸に、ボイストレーニングやギター、ベース、アンサンブル指導など幅広い分野で講師を務める。多方面でのサポート演奏やアンサンブルに関する知識と経験を活かし、作編曲やレコーディング、ディレクション、プロデュースといった制作面での活動にも従事。				
授業概要					
発表会に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。グルーヴ、リズム、演奏フォーム等ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。					
到達目標					
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手な得意に変え、精神と技量共にドラマーとしてのポテンシャルの向上を図る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	個人の目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたフォームの重要性、クリックに合わせた練習の必要性・過去に行われた有名アーティストの演奏から注意、学習すべきポイントを学ぶ。				
【前期】 5～8回目	楽曲に必要なリズムパターン、フィルインの練習 ・発表会で使う楽曲のリズムパターン、フィルインの理解、反復練習(ルーティメンツ練習を含む)・楽曲に合うグルーヴの研究・クリックに合わせる方法の学習				
【前期】 9～12回目	発表会の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、自分にあったセッティングなどを含むを決定する。・使用するスティックの材質や形状、チューニング、また自身の機材(スネア、シンバル等)の特性を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う。・演奏楽曲に使われるリズムパターン、フィルインの理解(反復)・自身のドラムパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス、また学生同士のディスカッションを行い、自身を客観的に見る力をつける。				
【後期】 17～21回目	発表会に向けて①パフォーマンス研究 ・春に作った資料を元に、一つ一つのフレーズをブラッシュアップさせる。・音価の重要性の学習、研究 ・クリックを取り入れた曲練習。・音源制作フォロー				
【後期】 22～25回目	発表会に向けて②ゲネプロ ・前テーマで決めたステージングを意識して教室内で発表、撮影→クラス内でよかった点や改善点など意見を出し合い、お互いをプロデュースする。・本番同様イヤモニを使用し、その環境に慣れる。				
【後期】 26～30回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・イベント・発表会の反省会や今後への課題、見通し。・ヒットソングなどの曲に合ったグルーヴを理解する(理由や理論を混ぜて解析)・音源に合わせてインプロヴァイズ(アドリブ)の練習				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	1年間のまとめ・実践:発表会(＋コンテスト)に向けて ・パフォーマンス研究→クラス内でゲネプロ、お互いの改善点など意見を出し合う ・授業開始当初に設定した目標の振り返り、自己分析からの自身のスタイルを確立				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	DAW I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行う。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～27回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 28～32回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 33～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラムフィジカルトレーニング		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ドラムフィジカルトレーニング		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	バンドメンバーとして作品発表や全国規模のツアーに参加。活動終了後はフリーのサポートドラマーとして多様なアーティストや音楽制作に関わり、アニメ関連作品にも多数参画。以降もユニット活動と並行し、幅広い分野で演奏実績を有する。					
授業概要						
年間を通した体幹トレーニングによるドラマーに必要な身体作りと、4Wayトレーニングやルーディメンツの応用による手足のコンビネーションを通した両手両足の独立と思考の習得を目指す。						
到達目標						
・基礎的な身体の使い方と、リズムパターン解析の思考方の習得。Feelへの理解を深める。 ・四肢を独立させることによる、より自由度の高い演奏の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	基本的なストロークと体の使い方 ・体幹を含めたトレーニング(プランク1分×3、バードドッグ×2)柔軟体操。(通年) ・練習パッド等を用いた4種類のストロークの説明と使い分け方とシングルストロークを用いたリズムの細分化					
【前期】 5～8回目	基本のドラミングフォームの説明 ・両手両足を自由に動かす為のフォーウェイトトレーニング及びボーストレーニング ・ストロークの使い分けを用いた8分、3連、16分のアクセントストローク					
【前期】 9～12回目	アクセントストロークを用いたリズムパターンへの応用及び8feel、16feelの理解 ・多彩なクリックを用いた(表拍、裏拍、3連裏等)のリズムの取り方 ・8ビート、シャッフル。8分を基音符調としたリズムパターン練習					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	16分音符を基調としたリズム ・バスドラムの16分音符移動の練習、ダブルキックの習得 ・バラディドルを用いた4Wayトレーニング					
【後期】 17～21回目	手のストロークとフットワークを使ったコンビネーション(16分基調) ・手足のコンビネーションを用いた応用(リズムパターン等) ・様々な手順による16分音符の叩き分けと各種キックパターンの複合練習					
【後期】 22～25回目	左足のハイハットワークの習得 ・フットハイハットを踏み続けながらのリズムパターントレーニング ・音価も含めたハイハットのオープンクローズ奏法の説明と習得					
【後期】 26～30回目	応用技術① ・ダブルバラディドル、トリプルバラディドルを用いた応用練習 ・トリプレットバラディドルを用いたキックパターンとの複合によるメトリックモジュレーション					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	応用技術② ・リニアドラミングによるリズムパターン、フィルインの習得(16フィル、6連フィル) ・楽曲のコピーを基にしたリズムパターンの練習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コード譜基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	コード譜基礎	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーリリースや海外ツアーの実績を持つバンド活動を軸に、ライブサポートやレコーディングで実務経験を蓄積。 教則講師や機材メーカーのモニターも務め、実践力と応用力の指導を行う。					
授業概要						
プロの現場で良く使われる『コード譜』(マスター譜)の読み方の基礎を学び、そして実践を交えての譜面に慣れる授業。						
到達目標						
コード譜に対しての苦手意識を無くす。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「譜面の基礎」 ・ト音記号、ヘ音記号 ・拍子の種類 ・音価の基礎 ・コード譜の書き方の基礎 ・4分音符、8分音符のリズム譜読み ・4分音符、8分音符のリズム譜書き					
【前期】 5～8回目	「リズム譜読みと演奏」 ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズム譜を初見で演奏をする ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズム譜を初見で演奏をする					
【前期】 9～12回目	「リズムの聴き取り、採譜」(リズムディクテーション) ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	「3連、シャッフルについて & 譜面の記号についての基礎」 ・3連、シャッフル、ハネ感についての聴き取り、採譜、演奏 ・“D.S”、“coda”などの記号についての基礎					
【後期】 17～21回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ①」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・The Beatles ・Ben E King ・oasis・Cyndi Lauper					
【後期】 22～25回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ②」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Norah Jones ・Carpenters ・Cream・Earth,Wind & Fire					
【後期】 26～30回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ③」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Maroon5 ・Alicia keys ・Bob Marley・Stevie Wonder					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	「セッション定番曲を実際にセッションをして学ぶ」 ・セッション定番曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐにセッションしてみる ・Bossa Nova ・Funk ・Jazz・Soul					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	31回(62単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～13回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 14～16回目	音、電気、マイクスピーカーについて					
【後期】 17～29回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 30～31回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						